

Aランクの 入学試験を：

コンピュータ・ベースド
試験がインドの大学の
成功を後押し



大学には、教育とトレーニングで次世代のプロフェッショナルを育成するという重要な任務があります。革新的な教育への投資や、将来のパイオニアの育成、研究における卓越性など、イノベーションが大学の進歩と発展の中枢を担っていることは明らかです。

インドのウッタル・プラデーシュ州にある**シブナダール大学**はそのような大学の1つで、創立からわずか数年で急速な発展を遂げました。2011年に創立されたシブナダール大学は、研究主導型で学際的な環境を構築しました。他の大学との差別化を図るために、学生が専攻分野の学位と併せて、可能な限り幅広いスキルセットを習得できる、学部カリキュラムを構成しました。

成長戦略をさらに押し進めるために**シブナダール大学**では、アセスメントサービスを活用して入学者選考のプロセスを大幅に変更しました。創立後7年でインド国内の数百ある大学の中でランキングを**48位**へと伸ばし、入学後最初の学期における学生のGPA(Grade Point Average : 成績評価値)を平均**14%**上昇させました。より広範な地域から熱意ある受験者を集める取り組みを強化したことを反映しています。



変革実現のために、シブナダール大学が実行したこと:

1. 適性検査の開発と導入

大学は、適性や向上心（定量的スキル、コミュニケーションスキル、分析スキルなど）をより幅広い角度から評価する試験を導入し、その後、学科の科目もこの試験方式に加えしました。標準化されたコンピューターベースの試験（CBT）を必須の出願プロセスとしたことにより、受験者にとってストレスが少ないコントロールされた環境で、より公正な入学選考の実現を可能としました。

2. 利便性とリーチの向上

試験を受けやすくしたことで、適性検査の受験者数が増加し、結果として大学の発展にもつながりました。利便性の高いピアソンVUE テストセンターでの受験を可能にしたことで、学生にとっては時間と費用が抑えられ、大学側はインド全土からの意欲的で多様な志願者に門戸を開くことができました。また、ピアソンVUEの試験予約システムを通じて、インド国外に住む志願者もこの入学試験を受験できるようになりました。

3. 実用的なデータを用いたプログラム評価

CBT試験では、項目別の詳細なレポートやグループパフォーマンスを使用した膨大なデータ分析が可能で、項目ごとのパフォーマンスや好まれる試験時間帯などの指標を確認できます。こうしたデータを大学の戦略に組み込むことで、試験問題を作成する専門家は試験が意図した目的を達成していること、そしてインド全土の受験者が試験を受けられる十分な機会を用意できることを確信しています。

CBT試験とテクノロジーを活用することで、シブナダール大学は長期におよぶ労働集約的なプロセスとなりかねない事務作業から、人的負担を減らすことができました。また、このように効率性が向上したことで、他の優先事項の見直しにもつながりました。その結果、日々の大学運営をより効率的に行えるようになり、継続的な発展のための戦略目標に集中できるようになりました。